

放射能ってコワイ？ 怖くない？ どーでもいい？

日時：2011年12月18日

場所：福島県いわき市久之浜町^{ひさのはままち}

制作著作：安東量子

*当テキストは、上記勉強会参加者の発言を一部抜粋してまとめたものです。

*参加者名は、江川紹子氏・安東をのぞき、すべて仮名です。

*■色=男性・■色=女性

TIME TABLE (総時間 2:08')

00'00 - 紙芝居

25'30 - 安東あいさつ

28'00 - 参加者自己紹介

48'00 - 勉強会 DVD 観賞

1:00'30 - DVD 中断・対話

1:06' - DVD 再開

1:21'40 - DVD 中断・対話

1:50'00 - ethos 資料の紹介



進行：安東量子

安東： 今回の企画は『放射能ってコワイ？ 怖くない？ どーでもいい？』というタイトルですが、最初に紙芝居を見ていただいて、それから DVD を上映後、会場の皆さんにもお話をしてもらいながら進めていくという展開を考えております。皆さんにもご協力をいただくことになると思いますが、どうぞよろしくお願いします。では紙芝居をお楽しみください。



紙芝居「放射能探偵団」

* 演者：蛭田智達（劇団いわき小劇場）
まおたん

参加者自己紹介

安東：今回上映する DVD は、2011 年 9 月 24 日、
いわき市^{たびと}田人町で開催された勉強会を収録した
ものです。講師として京都女子大学の水野義之先
生（物理学）をお招きしてお話をうかがいました。

原発や放射能・放射線の問題に関心のある方は、
すでにいろいろな講演会などにも行かれています
と思いますが、講師が一方向的に説明する講演会で
すと、自分が聞きたいことが聞けないことも多い
ものです。そこで自分の聞きたいことを聞ける機
会をつくりたいという思いから、こうした主旨の
勉強会を企画しました。

ただ、こうして^{ひさのはま}久之浜の皆さんに集まってもらっ
て勉強会をやって、知識をいろいろ学んでみても、
何かもやもやとしたものが残ると思うんですね。

「現実、ここに放射線というものがある」という
ことが問題であって、それは勉強したからってど
うなるものでもないという思いもあるでしょう。
そうした思いも含めて、皆さんと一緒に考えてみ
ようというのが、今回の企画の主旨です。

皆さんとのお話に入る前に、今回勉強会に参加さ
れている皆さんの簡単な自己紹介をお願いします。
お名前・ご出身と合わせて、今日ここにいら
した理由などを一言添えてください。今日、ここ
にいらした皆さんは、久之浜の方が多いのでは
うか。久之浜の方、お手を挙げていただけますか。
久之浜以外の方もいらっしゃるようですね。では
そちらの方から自己紹介をお願いします。

エジマさん：久之浜のエジマです。事故の起こる
前はどれくらいの放射能あったのでしょうか。



安東：いわき市の平^{たいら}辺りですと、確か $0.03\sim 0.05\mu\text{Sv/h}$ （マイクロシーベルト/毎時・以下同）の間くらいだったと思います。現在、平では $0.16\sim 0.17\mu\text{Sv}$ くらいですね。

エジマさん：判りました。ありがとうございます。

ニイズさん：久之浜から来ましたニイズです。

マヤマさん：いわき市の好間^{よしま}町から来ました、マヤマと申します。放射能については、小さな子どもがいるので、どれくらいのものを食べていけば安全なのかといった自分の基準をもちたいと思い、その勉強をしたくて、今日はここに来ました。どうぞよろしくお願いします。

イワキさん：先ほどいわき市の平では、放射線量が毎時 $0.03\sim 0.05\mu\text{Sv}$ の間くらいということでしたが、久之浜町内の原発から 30 キロちょっどの所。この駅前ですと $0.3\mu\text{Sv}$ くらいの数値が毎日新聞で報告されています。私の手元にあるのはたいした計測器ではありませんが、それで調べてみますと、だいたい $0.7\sim 0.8\mu\text{Sv}$ 。家の中でも $0.3\mu\text{Sv}$ は超えています。1 年間に浴びる Sv を考えると、 2mSv は超えてしまいますからね。これはとても心配で不安です。

トミナガさん：久之浜のトミナガと申します。5 年前に主人が定年しまして、その退職金をすべてはたいてこの久之浜に家を建てて越してきました。近所の方にも本当に良くしていただいて、サンマの獲れる季節にはたくさんのみりん干しを分けていただいたり、冬にはお野菜をいただいたりと親切にしてくれました。

私も自分の家でミニ菜園をやっておりませんが、ものをつくることってこんなにすばらしいことなんだ。こうした仕事が自分に向いていたことを知りとても楽しく暮らしてきました。でもこの原発の事故で、みんなが避難しなくてはならなくなり



ました。避難する日、ちょうど家族でガソリン探しをしていたのですが、こちらに戻ってきたら、町がゴーストタウンになっていて、誰一人いない。みんなどこに行ったのかさっぱりわからなくて、とても淋しく辛かったですね。

それまでは近所の皆さん、干したサンマをいろいろな方に送っていらしたんですが、原発の事故があってからは、そうしたものを送らないでほしいと言われた方もいたようです。こうした事故があったから仕方ないと、皆さんわかっていらっしゃるけれど.....それでも辛かったですね。なかには手紙も送らないでほしいという人もいました。

うちは息子が原発事故の前に婚約をしていました、相手は他県なんですけど、やっぱり親御さんがとても心配されまして、急にとんでもないということになりました。私たちが逆の立場だったら反対していたかもしれません。今現実の問題として抱えているのは、息子の結婚のことと、それからいったいこの場所に住んでいけるのかということ。こんな問題が起こるとは、こうなってみなければわかりませんでした。私たちの暮らしの隅々にまで原発の問題が入り込んでいて、本当に恐ろしいいきものだなということを感じています。

最近、柿の木を3本ほど切ったのですが、切りながら「この柿の木も生きていたんだな」と思うと泣けてきて.....。手を合わせました。家は小学校の裏にありますので、子どもたちはいつ帰ってくるのだろうと思いながら待っていたのですが、いざ帰ってきたら帰ってきたで、今度は本当にこれでいいんだろうかと複雑な気持ちです。何十年先ということとは、誰にも何もわかりませんから。私たちがこの年だからいいですが、未来を託す子どもたちが、これから先本当に安全なのかということだけが心配です。

以前、海岸で江川紹子さんにお会いしたものです



から、今日はまた江川さんにお会いしたくて、ここにまいりました。昨日から、この日のために準備して下さった皆さん、ボランティアの皆さん、企画して下さった皆さんに、感謝してお礼申し上げます。ありがとうございました。

トミナガさん：今家内がかなり詳しく話してくれましたが、わたくしは仕事柄、北海道から鹿児島、沖縄も含めまして全国を歩いてまいりました。なにしろローカル線に乗るのが好きで、常磐線で走ってきたなかでも、この久之浜が一番いいと思った。日当たりもいいし災害も少ないし、冬も寒くない。雪も積もらない。これほどいい所はない、最高の場所だと思って、定年後の住まいとしてここを選びました。横浜から移り住んできたのですが、それまでずっと雑踏の中で暮らしてきましたから、孫たちに故郷をつくってあげたいなとも思いましたね。ところが本当に想定外のことが起きてしまい、孫たちを呼べなくなってしまって、どうしたものかなと思っています。

カンザキさん：いわき市南部の錦町から来ましたカンザキと申します。春から被災者支援のボランティア活動をしておりまして、津波で被害を受けた方や原発で避難されている方など、いろいろな立場の方とお会いしてお話をしてきました。

地震と津波だけでしたら、今頃おそらく行け行けどんどんで復興ができたはずなんです、この原発事故のおかげで、どうしたらいいのかわからない状態です。昔でしたら、海がいわきの自慢だったわけで、何はなくとも海と温泉があるから遊びに来てと、友だちもどんどん呼べたんですが、今はそれもできなくなってしまい、すべての誇りを奪われたような思いがします。

そうした誇りを奪われたいわきで、子どもたちが誇りを持って生きていくためには、やっぱり無知であってはいけない。なんとか未来を拓く方法を

模索しなくてはならないと、いろいろな勉強会にも参加したり、本やインターネットなどを利用しながら、ずっと勉強を重ねております。こちらでも何か新しい、有意義な情報を得られないかと思いい参加させていただきました。よろしくお願いいいたします。

タバタさん：私は避難先の仮設住宅から地元に戻ってきちゃいました。一応 30 キロ圏内ということもあり、一時期は借り上げの仮設住宅に避難していたんですが、やはり住み慣れた久之浜が良くてね。「30 キロ圏内で帰ってくる人などいないのに、なぜあんたらは帰って来たの」と言われましたけど、私はもう後期高齢者ですからね。放射能のことはあまり気にしないで……。

屋敷にあった畑は全部津波で流されてしまいました。残っていた畑を耕して自給自足の野菜をつくろうと思って手を加え始めたら、土を 10 センチくらい取れと周囲に言われてうるさいんですよ。まあ今は土を深く耕して作物をつくっているんですけどね。だけど今になって考えてみれば、何年も前からあそこに原発はあったんだから、この事故があるまでは誰もシーベルトなんて測らなかったけれど、ずっと長い期間、放射能が落ちていたんじゃないかと。水素爆発する前から落ちていたんだのではないかとね。あんな近くにあるんだから。でもま、あまり気にしないでいこうと思っています。それでも本当は、放射能って怖いかもしれない。怖いか怖くないかを学ぶためにやってきました。

アンベさん：アンベと申します。家は久之浜にありましたが、津波で流されてしまいました。今は湯本のほうにアパートを借りて住んでおります。私の実家は浪江町なみえまちです。国道 114 号線沿いにある津島という所です。

もう泣けてきてしまうんですけどね。うちの家族

は何も悪い事なんかしていないのに、なんか倒産したみたいになって、みんないろいろな所に散らばっているんです。子どもは山梨に行っていますし、姉夫婦はお嫁さんが単身赴任のような形になって働いているので、小学1年生の孫の面倒を見ているんです。日曜日の夜になると、孫たちが「ママ行かないで」と泣くという。どんなに姉夫婦たちがかわいがっていても泣くという。孫たちは「放射能がいけないんだ放射能がいけないんだ」と何度も言うそうですが、それを姉はどうやって救ってあげたらいいかわからない。

山梨に行った甥の子どもは今中学生なんですが、学校に行けない状態です。近所の方はみな良くしてくれるんですけども、やっぱりことばも違いますし、放射能の心配はなくなったとはいえ、福島114号線の津島から来たとはとても言えないというんです。故郷を語れない子どもたちなんですよ。白河に行ったその1年生の子どももそうです。子どもなのに、あの浪江町から来たと言えない。私はあの311の日に津波を見ました。私は津波で家がなくなったので避難しましたが、あの人たちは、家があってもそこに帰れなくて、四畳半の仮設住宅にしぼんだようになって身を寄せ合って暮らしています。それまでは一番小さな部屋でも8畳という家で暮らしていたのに……。

114号線を登っていくとね。そこは本当に桃源郷といわれるくらい春はすばらしい場所だったんです。川のおせらぎも聞こえました。そこがお墓参りにも行けないような状況になっているんですね。故郷を早く返してほしいです。実家を返してほしい。浪江は、私たちの故郷は、本当に桃源郷のような所だったんですよ。

311の夜、泣き泣き兄に迎えにきてほしいと電話しました。当時兄たちも原発の爆発や放射能ことは考えていなくて「夜明けになったらお婆ちゃん

もみんな迎えにいくから」と言ってくれた。でも朝になったら逃げなくてはいけない状態で、浪江の人たちはみんな津島に集まったそうです。

私はテレビなどで大臣たちの話を聞いて怒りでふるえるほど泣きました。9月中頃まではずっと泣いていましたが、それ以降はもう泣かないと決めていました。でも今日、ここに来たらなんだか……。こんなお話してごめんなさい。放射能から早く救ってほしいんです。家を返してほしいです。ごめんなさい。長くなりました。

安東：あの、津島は本当に、いい所だと思います。

ノシマさん：実家が^{よつくらまち}四倉町で、今は内郷におりますノシマと申します。放射能・放射線に関しては、まだ自分の意見が言えるほどよくわかっていないので、いろいろな情報を得たいと思って今日はまいりました。ひとつだけ気をつけていることは、そうした情報に対して深刻になりすぎずに、かといって楽観し過ぎずに、ちょうど真ん中のあたりで自分の気持ちがぶれないようにしながら情報と向き合っていこうと努力をしております。

トキワさん：知人がこのイベントに携わっていて声をかけられたので今日はやって来ました。常磐ハワイアンズのある付近では、幼稚園の近くでひんぱんに放射線が測定され、けっこう高い値を出したりしています。日本では、この地震と津波をきっかけにいきなり身近になった放射能・放射線ですが、これに対して、地元の人がどのように向き合い、どのような結論を見つけ出して今後の解決に導こうとしているのか知りたいと思い、お話をうかがいにきました。

安東：あとからいらした方もどうぞお座りください。後ろにいらっしゃる方も前のほうにどうぞ。今ひととおり自己紹介していただいたんですが、あとからいらした方も一言ずつ、出身とお名前、

放射能について思うことをお話してください。

オオバヤシさん：ラブフォーニッポンというプロジェクトで、東京から参加させてもらっていますオオバヤシです。

ハネダさん：同じくラブフォーニッポンのハネダと申します。放射能については、やっぱり目に見えないものなので、本当はもっと怖いものなのかもしれないかもしれませんが、それがわからず普通に過ごしてしまっているところがあるので、ちゃんとした知識は必要だなと思っています。

安東：ありがとうございます。では DVD の上映に入らせていただきます。上映のあと、皆さんの感想などをお聞かせいただきたいと思います。

DVD 上映とアンケート報告

安東：この DVD に収録された田人町の勉強会では、事前にアンケートを採らせていただきました。今の田人の平均的な放射線量は $0.3\mu\text{Sv}$ ですが、今回のアンケートで「どれくらいの放射線量であれば安心できるか」という問いに対して、どなたも答えを書いていないんですね。いわき市平の数値もそうですが、放射線量は心配だけど、その基準値がわからないという方が多いようです。普段ないものがあるから怖いというのが、多くの皆さんの受け取り方かと思います。

事前のアンケートでは、「放射能と放射線・放射性物質の違いを知っていますか」ということも問いました。「よく知っている」「少し知っている」「どちらともいえない」「あまり知らない」「まったく知らない」という選択肢のなかから、田人の参加者の回答をホワイトボードに記します。田人では全部で 24 名の方に答えていただいたのですが、「よく知っている」という方は 0 人でした。



[いわき市田人町の参加者の回答]

Q.....放射能と放射線・放射性物質の違いを知っていますか

A.....よく知っている 0人
少し知っている 9人
どちらともいえない 5人
あまり知らない 7人
まったく知らない 3人

では、久之浜の皆さんにもお聞きします。アンケートにお答えくださった方、挙手をお願いします。

[いわき市久之浜町の参加者の回答]

Q.....放射能と放射線・放射性物質の違いを知っていますか

A.....よく知っている 2人
少し知っている 4人
どちらともいえない 0人
あまり知らない 4人
まったく知らない 0人

なるほど。久之浜の参加者のほうが、放射能・放射線についてはご存じの方が多いようですね。では次に「現在の放射線量について心配ですか」という問いに対して、田人の方は次のように答えています。

[いわき市田人町の参加者の回答]

Q.....現在の放射線量について心配ですか

A.....心配 6人
少し心配 15人
どちらともいえない 2人
あまり心配でない 1人
まったく心配ない 0人

田人では支所で計測しているのですが、だいたい毎時 $0.28\mu\text{Sv}$ くらい、高い所では 0.5 、 $0.7\mu\text{Sv}$ くらい出ています。もっと探せば高い所も出てくるかもしれませんが、 $1\mu\text{Sv}$ を超えている所は、今のところそれほど多くありません。では久之浜の方にお聞きします。現在の放射線量について心配ですか。

[いわき市久之浜町の参加者の回答]

Q.....現在の放射線量について心配ですか

A.....心配 1人

少し心配 8人

どちらともいえない 0人

あまり心配でない 2人

まったく心配ない 0人

「どれくらいの放射線量だったら安心して暮らせますか」というアンケートでは自由記入してもらったのですが、田人では多くの方が無回答でした。ここにいる皆さんのなかで、ご自分で年間に被ばくする放射線量の基準をもっている方はいらっしゃいますか。やっぱり、そこまでの基準はないけれど心配というところでしょうか。では引きつづき、この先の DVD 映像を流します。

DVD を観賞して

安東：この DVD のなかで水野先生が「あとからの検証で、初期の段階でヨウ素がたくさん飛んでいたことがわかった」といったことを説明されていますが、これはセシウムとヨウ素の比率の話です。物理学者たちの間では、セシウムとヨウ素の比率はけっこう重要なことのようにですが、私たちとしては、どちらがどれだけ多かったかということよりも、セシウムにせよヨウ素にせよ、絶対にどれだけ浴びたかというのが重要な話です。

結論からいえば、南部のヨウ素飛散量はそれほど多かったわけではなく、セシウムとヨウ素の比率からすると、ヨウ素が多かったということ。ここまでの DVD をご覧になって、なにか感想ございますか。会場の様子を見ていると、ちょっと関心が低いかなという印象だったのですが……。

(会場から「わかりにくい」の声)

うーん。わかりにくいですか。どういう視点で、どのように説明してもらったら良かったと思いますか。ご意見ある方はいらっしゃいますか。

トミナガさん：放射線の単位や被ばくの時間をいろいろ言われてみても、私たちは今ここに暮らしているわけですから、現状が黄なのか緑なのか、やっぱり赤なのかということをはっきり示していただいたほうがわかりやすいと思います。

安東：赤・青・黄というのは、安全や危険性が、今どのような状況であるかということですね。

トミナガさん：あとからこうだったという情報があまりに多いものですから。

江川紹子さんからの問いかけ



江川紹子さん

江川紹子さん：ちょっとお話しさせていただいていいですか。東京から来ましたフリーのジャーナリスト・江川紹子と申します。こんにちは。私は東電の管内に住んでおります。そして今まで、この事故があるまで、自分の生活を豊かにし楽しんでいるのが福島でつくられた電気であるということをほとんど考えることがありませんでした。そういう意味では、私たちの無自覚というものもこの事故の背景のひとつにあるような気がして、本当に申し訳ない思いでおります。

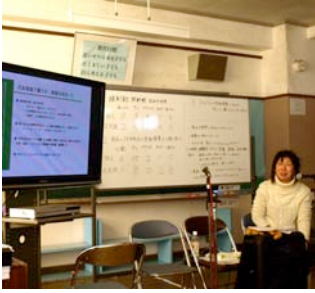
先ほど、浪江の方がお話しされていましたが、私も浪江に行きました。ちょうど桜の季節で、本当

にきれいな所でした。私が行ったときはすでに皆さん避難されて人がいなくなっていたのですが、ここに暮らしていた方々にとっては、さぞかし辛いことだろうと思いました。その後、放射線量の多さが発表されて、胸がつまる思いでいました。

皆さんの思いとしては、放射能そのものへの恐怖、あるいは放射線による健康への被害はもちろん一番大きい問題だと思いますが、先ほど「こちらのは送ってくれるなど言われた」とか「結婚の話で問題が出ている」とかいったことをおうかがいして、そうした外からの目、差別的な目を受けながら、ここでそれをどのように感じられているのか。あるいは辛かった思いなどを教えていただければと思います。

今、放射線による健康被害だけではなく、差別という問題も大きな問題のひとつになっています。私は放射線を取り除くことはできないけれども、差別の問題は私たちの力で少しは何とかできるかもしれないと思っていますので、皆さんの率直なところをお聞かせいただきたいと思っています。

アンベさん：現在いわき市には2万何千人の避難民がいるわけですね。今年（2011年）の6月初め、いわき市のパーマ屋さんで私は「邪魔」ということばを聞きました。そのとき私は自分が浪江から来たとは言えませんでした。「ゴミは出すし、市民税も払っていないのに、なんでいわきに来るの。邪魔だ」と。高校に入るのにも受験生で高校が溢れてしまうのではないかと。私の息子も受験生なんですけど、避難民がいるからそれで落ちちゃったらどうするのという意見もありました。だから一刻も早く、いわきの学校も枠を増やしてほしいと思います。どんな人でも入れるような。子どもたちもよくわかっているから苦労しているんですよ。それなのに避難民だからと言われて、いわきには入れないでくれみたいなことを言わ



れたら、本当に子どもたちは悲しいと思います。それから別のところでは「スーパーで買い物をしている人は避難民。裕福な避難民だ」と言われる。そういうことばがあるんですよね。でもね、あんな狭い部屋でおいしいものでも食べていなければやってられないじゃないですか。それが、東電からお金をもらっているから、いわきのスーパーでいいものを買うのは避難民だけですと、そういうことを言われる。そのときも私は浪江出身ですとは言えませんでした。ちょっとおいしいものを食べると非難される。だけど自分の家にいたら、5月にはもっとおいしいものを食べられていたかもしれないですよ。おいしいメロンをスイカを食べていたかもしれないですよ。この事故がなければ……。その避難民が、ちょっといいものを買っているだけで、そういう言われ方をされるんです。

それから仮設住宅の辺りを歩いている人たちは、ちょっと危険だとか物騒だとか言われます。なぜなら、みんな下を向いて歩いているから。上を向いて歩ける避難民なんて誰もいません。放射能も見えませんが人の心も見えません。私たちは毎日、ああ今日はここで買い物できたけれど、明日はどこに行っても買い物すればいいのだろうと思います。避難所はいろいろな所を転々としてきました。高校の体育館から北は一関にまで行ってお世話になったこともありました。雪の中、3月4月なのになぜ私はこんな雪の中で買い物に走り回っているんだろうと呆然としたこともありました。

一概には言えないのですが、皆さんとても親切にしてくださるのですが、親切にするのと受け入れるのとではちょっと違うように思います。私は郡山に避難していたときに、ビックパレットふくしまに何度か足を運んで、ゴミの片づけなどを手伝いました。夫は「自分たちが避難民なのに、な

「ぜ避難民の手伝いをするのか」って言ってましたが、もういてもたってもいられなくて手伝いに行っただけです。

ビックパレットの避難所の中に沈んでいる人を見ましたか。船底にいるようなものですよ。みんなどろんどろんとしている。その人たちのことを見て、目つきが悪いとかそんなこと言わないでほしいのね。孫子の代まで故郷に帰れないかもしれないと言われた人たちは、そんな元気になれないし生き生きした目になんかなれないと思います。気持ちは本当に見えない。誰もね、東電のお金をもらってうれしいなんて言っている人はいないと思いますよ。あそこを返してほしいだけなんです。避難民避難民と言うのも言われるのももう聞き飽きたし、震災の復興復興というのも聞き飽きました。本気で復興する気がないのなら、そんなこと言ってほしくないとも思います。ごめんなさい。とりとめもなくして.....

安東：私もいわき市民ですが、避難されている方たちには気持ちよくいわきで過ごしてほしいと、私は思っています。

アンベさん：ありがとうございます。

タバタさん：私たちが避難した頃ね。ある友だちは横浜に避難したんですが、スーパーで買い物していたら、たぶん田舎のことばで話したんでしょうね。「どちらからいらしたんですか」と聞かれたので「福島です」と答えたそうです。そうしたらその相手は、すーっと帰っていったんですって。それからスーパーの店主に「福島っていうことはここで言わないでください。嘘をついてもいいので、ほかの県名を言ってください」と言われたそうです。あの店には福島の避難民が買い物に行くって思われて、それが伝わってしまうからと。そう店主に言われたと、泣いて話していました。

それとね。放射能のために親戚の家に避難させて友人は、その避難先はとても裕福な家だったらしく、いい羽毛ふとんで寝かせてもらったんですって。こちらに帰ってきてから、その家の人がある時に使ったふとんを二組送るって言ってきたそうです。友だちは「とんでもない。いいものですからとてもいただけません。大事に使ってください。お世話になりました」と返したんですが、結局その羽毛ふとん、全部ゴミに出して処分してしまったという。「私たちばい菌なんだよね」って言いながら、嘆いて泣いていました、その友だち。放射能に追われて避難して 10 日ほど泊まっただけでふとんが処分されちゃったの。本当に私たち、この放射能ではいろいろ悪口を言われました。

ヒルタさん：私は芝居をやっている関係上、ほぼ毎週東京に行っています。ある日、自家用車で東京に行って駐車場に車を駐め、芝居の稽古が終わって戻ってきたら、4 本ですよ。タイヤの横から穴を空けられて「いわきは来るな」と張り紙されてました。ああこういう奴いるんだと。どうしてくれようと思いましたが、このままでは帰れないし、とりあえず JAF を呼んでレッカーで運んでもらって、タイヤ 4 本分 12 万円を支払って交換して帰ってきました。事実、私の周りでも差別的な発言や行動はあります。一部の人間であってほしいと信じたいけれども、本来誰が悪いのかという話が欠落しているなかで、浪江だから富岡だから大熊だからならば檜葉だからと言って差別される。これは日本全国で考えていかなければならないことだと思えます。

そもそも放射線って本当に怖いのかっていうこともある。今回こちらで安東さんが提案してくれたこの企画は、放射能・放射線について何も知らず、ただ怖いと恐れているだけでは何も進まないから少しでも理解していこうと、田人で水野先生

に話をしてもらって、それをさらにかみ砕いてわかりやすくしたのが今回の紙芝居です。まずはとっかかりとして放射線について学ぼうという試み。こうしたことを知ってあまりヒステリックになるのもどうかなというのもあるし、同時に正確な情報が出ていないのではないかという思いもある。そうしたなか自分で勉強していくしかない。

のけものって言い方はよくないかもしれませんが、今世界から見たら、日本自体がそういう状態にあるってことは政府も自覚しなければいけないと思う。それをおためごかしに安全というのはどうかなど。むしろ危なかったら危ないときちんと言ってもらったほうがいい。「たいへん残念ではありますが、浪江は放射線が半減するまでには40年50年かかるのでお戻りになることはできません。申し訳ありません」と言われたほうがいい。確かに辛いんだけど、危ない所に戻されていくよりはいいのではないかと思います。

イギリスのアニメーションで『風が吹くとき』という作品があるんですが、これは二人の老夫婦が政府の指導に従って核戦争に備えて防護策をする話。戦争が起きて地下室を掘ったりするんですが、結局ふたりとも放射線障害で孤独に亡くなっていくという話です。見た目はかわいらしい絵なんですけど残酷な作品です。今の日本ってまさにそうした状況に置かれているんじゃないかと。

情報が隠蔽されて、正しくない情報で危ない所に住みなさいと言われてるように思えてしかたないんですよ。そうは思いたくないんだけど、もう戻れないんだったら、辛いけれども諦めてくださいという言葉が政治家が判断して伝えるべきだと思う。そうしないと我々はずっとあやふやなまま、ずっと疑心暗鬼になりながら、避難民の方を差別しながら生きていってしまいかねない。人間としての心をどこかに置き忘れてしまうんじ

やないかと。そうした恐怖心はあってはならないし、それをなくすためにも後出しじゃんけんのようなことはしない。今回の原発終息にしても、私は端から信用していません。

アイナイさん：一参加者としてちょっと言いたいことは、放射能のことにしろ、そのほかのさまざまな問題にしろ、いったい正しい情報、正しいものって何なのかということ。何を信じたらいいのかわからない。でもそれを実際に知ったところで、僕たちはここで暮らしているわけですから、その次のことを考えたいわけです。ここで暮らすこと、暮らしていきたいという気持ちが僕らのなかにはあるわけで、それが一番核にあると思うんですよ。そこは間違いないことだと思う。じゃあ暮らしていくためには何を信じて、どうしたらいいんだろうと。そのとっかかりがなかなか見つからないんだけど、それを見つけないという思いは僕にあります。とにかくわからないことが多すぎる。ありすぎる。学者さんなみに量子力学などを理解したところで、ここに暮らせるのかどうかということにはわかりませんから。すみません、とりとめのないことを話してしまって。でもこれが僕が言いたかったことです。

マヤマさん：私もとりとめなくなってしまうかもしれないですが、私もアイナイさんと同じで、ここに暮らしたいだけなんです。ただ普通に暮らしたいだけ。いわき市の線量くらいでしたらここに暮らせると私は思っているんですが、そう思えるようになるまでには自分でもいろいろ勉強して、これくらいだったら年間浴び続けても問題ないだろうといった学術的なデータを調べ、知識を学んだうえで、自分でも納得したからです。そのうえで、友だちにも「こういうことだから大丈夫かもしれないよ」と伝えてみるんですが「でも普段とは違うよね」とか「でも福島だよね」って言わ

れると、それですべてが否定されてしまう。そういう問題にいったいどのように立ち向かっていったらいいのかがわかりません。

結局それって放射線量の問題でここに住めないというのとは違って、なんだろう。穢れ思想みたいな、いわゆる心の問題でここには住めないとされているような気がするんです。特に東京からいらっしゃるボランティアの方にはとても親切にしてくれているし、いろんな援助も受けているんですが、そういう方でもぼろっと「でもここって子どもを育てる環境じゃないよね」とか「チェルノブイリよりもひどいよね」ってさらっと言われると、それで結構傷ついてしまって。でも私はここに暮らしていきたいだけだから、もうちょっと、そういうところにデリカシー使ってもらえないかなあと、そういうことをすごく思います。

私の友だちでも、東京に避難してお布団捨てられたとか給油を拒否されたとか、車でディズニールンドに行ったら「福島に帰れ」って張り紙されたといった話はいっぱい聞いています。でもそういうことがある一方、本当にガソリンがなくて困っているとき、食糧をいっぱい積んで福島に帰るときに、「これから福島に帰るんです」ってガソリンスタンドの店員さんに伝えたら、本当は 20 リッターしか給油できないところを満タンにしてくれたという話も聞きました。辛い話ばかりがピックアップされがちですが、その一方で人間の善意も同じくらいあるはずなんで……。私は、なるべくそういうところを受け入れていきたいなと思っています。

トミナガさん：難しい話はよくわからないので、自分の家のこと、避難から帰ってきたときの素直な感想を言わせてもらってよろしいでしょうか。自宅に帰ってきたとき、ミニ菜園の緑がとっても濃ゆくてきれいで、アスパラも玉ネギもネギも、

青々しく本当によく育っていました。いつも散歩していた道端の雑草も、普段ならこんな時期にこんなには大きくなっていないというくらい大きくなっていました。そのことをある講演会でいらした放射線科の先生におたずねしましたら、「自分は作物の専門家ではないから、わかりません」と言われました。

私は 40 歳のときに子宮筋腫で子宮を切除していることもあって、女性ホルモンについて早くに違和感がありましてね。産婦人科を受診して、女性ホルモンのシールを貼るよう処方されたんですが（注射の代わりに女性ホルモンのシールを体に貼るもの）、これを貼っていたら 2、3 日して胸が張ってきたんです。女性ホルモンってこんなに体に影響するものかと怖くなって、すぐにやめてそれからずっと忘れていたんですが、こちらに来てからしばらくして胸が張るような感じがあったんですね。それまで無我夢中で生活してきて、なんの覚えもない。これは女性ホルモンの関係じゃないかなと思って、産婦人科の先生に「急に女性ホルモンが動き出すなんてことあるんですか。これは放射能と関係ありますか」とたずねたのですが、先生は「それは絶対ありえない。おそらくショックからのことだろう」と。だけど私としては、体の変化もそうなんですが、作物が異常に生育したという事実。このことについては誰も教えてくれないので、それを知りたいです。

安東：今年（2011 年）の作物の生長については、私も詳しくお答えすることはできませんが、私の本来の職業は植木屋なので、植物のことはほかの方よりは多少よく見ているつもりです。今年は確かに野菜の生育が良かったですね。果物もそうです。なぜだろうと考えて、自分のなかですとんと納得したのは、春先に雨が多かったということ。植物って春先に雨が多いと生育がとてもいいん



です。このことで植物の生育は全然違います。逆に春先に雨が少ないと、その後の生育がものすごく悪くて、春以降になんば雨が降っても生育が悪い。春先に雨が多く、晴れるときにはしっかり晴れて……おそらくそうした気候の影響で植物の生育が良かったんだろうと思っています。ただ皆さんの心の奥底に放射能・セシウムということが散らばっているから、お客さんの所に行ってもよく言われるんです。「今年は植物の生育がいいが、これはセシウムのせいじゃないか」って。普段から植物の生育を見ている私としては「うーん。これは春先の雨の影響で、放射線の影響というのはちょっと別のお話じゃないかな」とっています。

なぜかと言いますと、今散らばっているセシウムというのは、放射線量でいえば確かにばかにできる量ではないんですが、物質としてのセシウムということで見たら、全部で5kgくらい程度なんだそうです。それがこれだけの被害をもたらしているわけですが、この5kgがこれほど広範囲に散らばったからといって、それが植物の生育に影響を与えようがないんです。普通にまく肥料のことを考えたらわかると思いますが。そうしたことから、個人的には今年の植物の生育は気候の影響ではないかと思っています。誰も証明はできませんけれど……。

【注意】

*当テキストは、2011年12月18日、いわき市久之浜で開催された企画勉強会『放射能ってコワイ？ 怖くない？ どーでもいい？』に参加された方の発言を一部抜粋してまとめたものです。

*無断転載・引用・配布は一切禁止とします。ご理解・ご了承ください。